

間断かん水で葉色を保って登熟を促進しましょう

高温が続いたことから生育は早まり、中生品種でも早い地区では出穂が始まりました。本年は、ほ場や地区によって生育が大きくばらついています。生育をしっかり把握し、ていねいな水管理で暑い夏を乗り切りましょう。

1 7月30日現在の生育状況（品種：コシヒカリ 拠点ほ場9か所の平均）

● 目標値より草丈は高く、茎数は少ない。葉色は低い。生育の地域差が大きい。

		本年値 (分施体系)	前年値 (前年比・差)	目標値 (かん水-生育目標値比・差)	本年値 (*一発体系)
草丈(cm)		90	78 (115%)	85 (105%)	94
茎数(本/m ²)		353	357 (99%)	400 (88%)	359
葉数(葉)		12.7	13.1 (-0.4 葉)	13.0 (-0.3 葉)	12.6
葉色	SPAD値	30.8	31.8 (-1.0)	33.0 (-2.2)	31.6
	葉色板	3.0	3.7 (-0.7)	3.8 (-0.8)	3.2

*一発：H30 から基肥一発体系(全量基肥施肥)数値を参考として掲載します

2 今後の管理のポイント

- (1) 登熟期間の間断かん水や収穫時の速やかな排水のため、溝と用排水路の点検を行ないましょう。
- (2) いもち病に弱い品種で葉いもちの発生が散見されます。各自でほ場内の発生を観察し、確認次第直ちに防除を実施してください。
- (3) 有機基肥一発肥料のほ場では、基本的に穂肥の施用は不要です。葉色が低下してきている場合は、間断かん水を実施し、できるだけ葉色を維持しましょう。葉色板で3.0を下回ってきている場合は、JAまたは普及センターに相談してください。

こまめに水分補給と休憩をとって、熱中症を予防しましょう